

「第4回男性介護者ケアの集い」ニュース



令和4年2月15日(火)「第4回男性介護者ケアの集い」を開催しました。今回は、6人の方が参加され、佐々中学校での認知症サポーター養成講座の様子や清峰高校生にインタビューした様子の動画を見てもらい、参加者に感想を聞きました。



認知症サポーター養成講座の内容について

昨年11月に佐々中学校の中学生、保護者、教職員に向けて認知症サポーター養成講座を開催しました。内容は、認知症の症状や対応の仕方、認知症のおばあさんの思い、佐々町での取組について動画を見てもらいました。

参加者からの感想

- ・昔より三世代同居家族は減り、祖父母が認知症になることを目のあたりにすることも少ないと思う。認知症のことを早くから学んでいくことは大切だと思う。特に中学生は、知識として真っ白な状態なので学ぶことはとてもよかった。今後もこのような活動を続けてほしい。私たちも後姿を見せていきたい!
- ・学校教育でこのような授業をする時代になったとは驚きである。昔は、介護の知識もなく、介護保険のサービスもなかった。昔は、紙おむつもなかったし、家族が全部介護をやっていたのは、本当に大変だったと思う。
- ・自分の親せきの子供は、家によく来てくれて、とても優しく接してくれるが、現在は、親せき同士の付き合いも軽薄になっているし、コロナ感染の影響で人との交流もできないので、より認知症が増えていると思う。



高校生へのインタビューについて

下宿している大家さんの妻(おばちゃん)は、認知症があり、3年間一緒に生活をしてみて、どんなことを感じ、どのように接してきたかをインタビューした様子を動画で見てもらいました。(インタビューの内容は、認知症サポーターニュースを別に作成していますので、ご覧ください。)

参加者からの感想

- ・おばちゃんは、お話や挨拶をすることで今の状態を維持できているのではないかな。
- ・生徒さん達は優しく、おばちゃんとのいい関係を上手にとっている。
- ・生徒さん達は、2人の生活を見ながら、自然と認知症を学んでいる。
- ・家族だけの生活できつくと対応していれば、認知症の進行も早まったかもしれない。
- ・介護者ケアの集いのメッセージを少しずつでも広げていきたい。

参加者の最近の様子を聞きました

- ・妻がトイレの場所がわからなくなり、失禁が増え、夜だけおむつをするようになった。おむつの枚数が増えて、おむつ代が大変である。
- ・おむつ代の佐々町の助成制度を初めて知りました。もっと早く知っていたら・・・
- ・母が、夜中にベッドと壁の狭い隙間にはまり込んでしまった。けががなくてほっとしたが、ベッドの手すりを外していたためにおこってしまった。
- ・愛犬が亡くなったが、妻は、なくなったことも忘れていないのかもしれない。
- ・ペットがいなくなることで落ち込み、症状が悪化することもあるので、すぐに同じようなペットを飼ったという意見もありました。
- ・年末年始の仕事が忙しく、妻はデイサービスに通ってもらい、助かりました。
- ・妻は、デイサービスなどに行きたがらないので、家でずっと見ているが、ちょっとしたことでけんかになることがある。果たして、これでいいのか？
- ・デイサービスを利用しているメンバーから「デイサービスを嫌がる時期もあったが、気持ちが変わり、行きだすようになることもある。友達とおしゃべりが楽しくデイサービスから帰ってきてても機嫌がいいこともあるし、疲れて夜ぐっすり寝ることも助かっている。また職員が、体の皮膚の状態や体調に異変があるとすぐに連絡してくれるので、ありがたい。一度試してみてもいい」という意見を頂きました。

**※参加者同士でいろんな問題を一緒に考え、アドバイスをしあう関係が
ほほえましく感じました。**



認知症のおばあさんの話を聞く様子

次回の集いのお知らせ

日時：4月26日（火）10時から12時
場所：健康相談センター
今回は、オムツの種類やつけ方のコツ、経済的な利用の仕方、助成制度の説明を行います。
初めての方も気軽にご参加ください。

編集後記

今回、中高生が認知症についてどれだけ関心があるかを見てもらいました。佐々町として認知症に優しい町づくりを目指して取り組んでいることを伝えました。認知症の対応の仕方や介護の大変さを知ることによって家族同士や地域のきずなが深まり、お互いに理解し合えることの重要性を知りました。また参加者同士でお互いにアドバイスし合える仲間になっていることがとてもありがたいと感じました。